KUMAMOTO
GREEN Rotary-Club
The Weekly Bulletin
Kumamoto green rotary-club district 2720 rotary international

2024～2025年度テーマ

R.I. 会長テーマ 「ロータリーのマジック」 R.I.会長 ステファニーA.アーテック

R.I.2720地区テーマ 「寛容な心でロータリーの未来、そして若者の未来を考えよう」 R.I.2720 地区 ガバナー 三村彰吾

熊本G.R.C.テーマ 「ロータリーに目的を持ち人生を豊かにしよう」 熊本グリーンRC会長 宮部康弘

ロータリーのマジック

■例会日：毎週月曜日 18:30～19:30
■例会場：熊本市中央区城東町4－2 熊本ホテルキャッスル
TEL096－326－3311

■創立：平成元年2月22日 ■会長：宮部康弘 ■幹事：河島一夫 ■会報担当：田中慎二
■事務所：熊本市中央区城東町4－2 熊本ホテルキャッスル内
TEL096－354－4521 FAX096－354－4053 E-mail:kgrc@serc2720.org

国際ロータリー第2720地区 熊本グリーンロータリークラブ週報

第 1561 回

2024 - 2025 年度　第 36 回

令和 7 年 5 月 26 日

【例　会】

1. 閉会・点鐘　18:30
2. 食事と交歓

・「手に手つないで」
（ロータリーソング）

来訪者紹介（宮部康弘会長）

山口 翼会員御家族
田中純司会員御家族
山下佳介会員御家族

友情の握手

会長挨拶（宮部康弘会長）

皆さま、 こんばんは。本日は例会の後に「蛍観賞」を予定しております。日常の喧騒を離れ、自然と静かに向き合う貴重なひとときになるのではないかと思います。ご家族の皆さまもご参加頂き誠にありがとうございます。

蛍の光というと、誰しもがどこか懐かしく、心が穏やかになるような気持ちになるのではないでしょうか。実はあの光、求愛のサインなのです。オスの蛍が空中を飛びながら光を点滅させ、それに応えるように草むらのメスも光を返します。まるで、命と命が静かに語り合っているようです。この美しい光は、化学反応によって生まれています。 蛍の体の中で生成されたルシフェリンという物質が空気にふれる事で光にかわります。発光のエネルギー効率はほぼ100%で、熱をほとんど持たない「冷光」と呼ばれるものです。人類の技術でも再現が難しい、まさに自然の神秘です。

昔は、田んぼや川辺、ちょっとした小川のそばなど、身近な場所でたくさんの蛍が飛んでいるのを見ることができました。 幼少期は虫かごを持って蛍を追いかけに、家族で夜の散歩に出かけていました。しかし今では、蛍の姿を見ることができる場所は、全国的にもどんどん減ってきています。日本でよく見られる「ゲンジボタル」は、川のそばで育つ蛍です。この蛍は、生まれてからすぐに水の中に入って、水の中にいる「カワニナ」という巻き貝を食べて育ちます。このカワニナがいなければ、蛍の幼虫は生きていけません。きっと、その川の水がきれいで、

グリーンロータリークラブの例会日がきても、出席まるかどうか決めるには及びません。
というのは、私にとって出席は決まりきった事だからです。これは、ロータリーに入会したとき受入れた義務の一つです。

卓話予定

6／2　熊本グリーンローターアクトクラブ 活動報告
6／9　「次年度 第２回クラブ協議会」★次年度各委員長より委員会活動計画発表
6／16　会長・会長ｴﾚｸﾄ・副会長・幹事・ＳＡＡ・６常任委員長 来任挨拶
6／23「夫婦会・歳祝会」（於：フランス料理「七彩」）予定

［熊本グリーンRC ホームページアドレス］ http://www.kg-rc.com/

ゆるやかな流れがあり、農薬や生活排水などが混じっていないことも、とても大切です。水が汚れていたり、川の流れがコンクリートで整備されすぎていたりすると、カワニナも蛍も姿を消してしまいます。 そして、 蛍の幼虫は、約半年から 1 年を水の中で過ごし、春になると上陸してサナギになり、ようやく成虫となって空を舞います。光を放ちながら飛ぶ期間は、たったの 1～2週間ほどです。今日こうして蛍の舞う光景に出会えるというのは、じつはとても貴重なことなのです。 そして、この地域にまだ自然の豊かさが残っているという証でもあり、また、その環境を守り続けてきた人々の努力のたまものでもあります。この後、観賞に向かいますがこのような環境を一所懸命守ってくれている西里地区の皆さんに感謝の気持ちをもって伺いましょう。では本日もよろしくお願いいたします。

幹事報告　（河島一夫幹事）

■報告事項

本日は例会の後半は「西里のホタル」を見学に行きます。熊本グリーンロータリークラブが西里のホタル保護育成の支援金を少しではありますが１５年以上継続して出しております。15 年前より確実にホタルの個体数も増えておりますのでそれを見学してきて下さい。

<例会変更・取り止め>

●例会変更

[熊本江南 RC]

6 月 11 日（水）の例会は、歳祝い会のため、同日 18:30 より「紅蘭亭　下通本店」にて行います。

●例会取り止め

[熊本江南 RC]

6 月 25 日（水）の例会は、クラブ定款に基づき、取り止めます。この日は、サイン受付は行いません。

出席報告

（山口悦史 クラブ管理運営委員（出席担当）

	会　員　総　数	20名	出 席 率
5月26日	出席免除会員数	０名	
	計算上会員数	20名	
	出席会員数	１３名	65.00%
4月28日	前回の出席会員数	１０名	
	メークアップ数	２名	
	修正出席会員数	１２名	60.00%
メークアップ済み会員及メークアップ訪問先			
・4/6 地区研修協議会 田上 会員 ・4/28 RI会長代理晩餐会 田代 会員			

スマイル（山下佳介スマイル担当）

●宮部康弘 君、河島一夫 君、山口悦史 君

「本日はホタル見学会です。今年も皆さんと幻想的な雰囲気を楽しめる事にスマイル致します。ご家族の皆様いつも私たちを支えて頂きありがとうございます。」

●山下佳介 君

「今日はホタルがたくさん見ることができますように、スマイル致します。」

●松村秀逸 君

「本日なホタル観賞会を楽しみにしております。又、私の西里校区の町づくり委員会に支

援を頂きありがとうございます。感謝してスマイル致します。」

●田中慎二 君

「今日のホタル見学会。たくさん見れます様にスマイル致します。」

●田代 武 君、荒木一之 君、河野景治 君、田中純司 君

「本日のホタル見学会楽しみにしております。」

3. 例会プログラム

西里地区蛍鑑賞会

ホタル観賞会前の例会

ホタル観賞会前の例会

ホタル観賞会前の例会

西里地区ホタル見学会

竹明りがとても幻想的で綺麗です

4. 閉会・点鐘

例会終了後、西里地区蛍鑑賞会へ移動

お知らせ

My ROTARY にて、表示言語に選択されている言語の資料が表示される仕様となりました。日本語の資料がダウンロードできない（他の言語で表示されてしまう）方は、My ROTARY にログインのうえ画面右上で表示言語に日本語を選択し、再度お試しください。

【世界中で活躍する「行動人」】

世界中のプロジェクトをご紹介します。

https://www.rotary.org/ja/rotary-projects-around-globe-may-2025

ロータリーボイス　世界で行動する人びとの体験談とストーリー

パキスタンの予防接種の最前線で闘う「隠れた部隊」
40 万人を超えるポリオ根絶ワーカーたちを支える仕組みとは

「コミュニティヘルスワーカー」という言葉に耳慣れない人は多いでしょう。ましてや、実際に会ったことのある人は少ないはず。しかし、世界の医療システムにおけるその役割（多くはボランティア）の重要性は、ますます高まっています。特にポリオ根絶や疾病予防など、ロータリーの保健の取り組みには欠かせない存在となっています。

コミュニティヘルスワーカーの多くは、地域社会と強いつながりを持つ女性たちです。これらの女性ワーカーは、困難な環境に暮らす人びとに手を差し伸べ、家々を訪問して基本的な医療サポートやアドバイスを提供します。多くの国では、ポリオ予防接種活動の主力メンバーでもあります。
医療人類学者で、ジョンズ・ホプキンス大学教授であるスベア・クロッサー氏はこう語ります。

「彼女たちは妊婦に基本的な健康チェックを行い、出産の際には病院まで付き添い、出産後も母子の状況を確認して予防接種を促します。ポリオだけでなく、ほかの予防接種のサポートも行っており、ワクチンに対する親の不安を和らげたり、接種会場まで連れて行ったりしています」

パキスタンは、いまだに野生型ポリオウイルスが存在する世界で二つの国の一つ（もう一つはアフガニスタン）です。このため、特にパキスタンでは、コミュニティヘルスワーカーによる予防接種活動と啓発活動は極めて重要となっています。

パキスタン全土に 40 万人以上のコミュニティヘルスワーカーが存在し、遠隔地にも派遣されています。その規模は「この国の軍隊に次ぐもの」と言うのは、イスラル・ウル・ハク氏です。ウル・ハク氏は、世界ポリオ根絶推進活動（GPEI）の中心的パートナーの一つ、UNICEF（国連児童基金）の社会・行動変革専門家であり、この国でのポリオ根絶を監督する重要な役割を担っています。

パキスタンのコミュニティヘルスワーカーには、「最前線ワーカー」と「社会啓発ワーカー」の二種類があります。50 万人近いコミュニティヘルスワーカーを見つけ、研修し、管理することの必要性について、ウル・ハク氏にインタビューしました。

Q: 最前線ワーカーと社会啓発ワーカーの役割は？
A: 最前線ワーカーは家々を訪れ、子どもたちに予防接種を行います。一方、社会啓発ワーカーは、ポリオ予防接種の大切さや母子の健康について、地域にメッセージを伝えます。

Q: 国内のあらゆる地域社会でワーカーを見つける必要があるのですか？
A: そうです。人びとが安心して受け入れられるよう、地域とのつながりがあり、信頼されている人を見つけることが重要です。外部の人間では信頼を得られませんから、地域に住む人の中から選ぶ必要があります。

Q: 地域内の人であることがなぜ重要なのでしょうか？
A: 「仲間なら自分たちを傷つけることはしない」という信頼感があります。その信頼を得てこそ、ポリオ予防接種の大切さを人びとに説得できるのです。28 年に及ぶ活動の成果として、現在では 95%以上の家庭が予防接種ワーカーの訪問を受け入れてくれます。

Q: ヘルスワーカーの採用にはどんな条件がありますか？
A: 主に女性を対象としています。保守的な地域では、家族以外の男性は家に入ることが禁じられており、母親たちに会うこともほぼ不可能だからです。ただし、女性が赴くのが困難な遠隔地では、現地の男性を採用することもあります。

Q: 遠隔地でワーカーを募る上で、ほかにどんな課題がありますか？
A: ワーカーは十分に読み書きができるだけの教育を受けているべきですが、遠隔地では識字率が低い場合もあります。そのような遠隔地では、読み書きができなくても地元で信頼されている高齢女性を採用することがあります。

Q: ワーカーたちはどのような研修を受けますか？
A: ポリオや定期予防接種に関する基礎知識、対話や傾聴のスキル、家庭医療の基本などを学びます。最近では「ゴールデントライアド」と呼ばれる 3 人 1 組（地域責任者、最前線ワーカー、社会啓発ワーカー）の体制を導入し、信頼構築のアクティビティなどを通じてチームワークを強めています。社会啓発を絶やさないために、6 週間ごとに定期的な再研修も行っています。

Q: ワーカーへの報酬はありますか？
A: 月に約 150 米ドル（約 2 万 2 千円）が支払われます。

Q: 最前線ワーカーたちは予防接種キャンペーンを年に何回実施しますか？
A: 平均で年に 6〜8 回ですが、そのうち全国一斉のキャンペーンは 3〜4 回、それ以外は地域限定で行われます。最近の大規模なキャンペーンでは、約 4,520 万人の子どもに予防接種を実施しました。